

西諸島地域の普及活動

令和5年12月
西諸島農林振興局
(西諸島農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 12月期子牛郡品評会が開催

8日、小林地域家畜市場において、西諸島郡市畜連主催による令和5年12月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には雌子牛50頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壹等賞に24頭、貳等賞に19頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市のMM氏出品の「きぼう286」号(富久竜一洋紀久一第1花国)、2席は小林市野尻町のTA氏出品の「ながおか613」号(二刀流一隆之国一茂洋)、3席は小林市のTK氏出品の「ひかる1388」号(宗守富士一満天白清一勝平正)が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、輪郭鮮明で種牛性に富むとの講評でした。



【優等賞首席のきぼう286号】

2) JAこばやし特別栽培米協議会代表者会が開催

25日、JAこばやし主催によるJAこばやし特別栽培米協議会代表者会が開催されました。

管内で特別栽培米を生産している地区の代表者4名を対象に、令和5年産普通期水稻の気象・生育概況や令和6年産特別栽培米暦の案について、普及センターから説明しました。協議のなかで、今年状況や来年度に向けた栽培管理等で活発な議論が交わされました。

今後も引き続き、JAこばやしと連携しながら、特別栽培米の生産者の活動支援を行っていきます。



【代表者会の様子】

3) 「みやざき畑かん営農振興大会」の開催

21日に、県内の畑かん営農の普及・拡大を図ることを目的に、「みやざき畑かん営農振興大会」が県と小林市の共催で開催され、約400名の畑かん利用農業者や関係者が参加しました。

大会では、畑かん営農に関する特別講演(奈良県五條吉野土地改良区)や県内の事例発表(小林市の宇都克志氏他)が行われ、畑かん営農の機運が高まりました。



【みやざき畑かん営農推進大会】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現に向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 令和5年度にしもろサップ冬期大会を開催

19日、普及センターで、令和5年度にしもろサップ冬期大会が開催されました。参加者はSAP16名で、その他に、今回は新規就農者にも案内したところ、3名の参加がありました。

大会では、えびの市SAPのT氏がプロジェクト発表を、小林市SAPのM氏が意見発表を行いました。また、それ以外の会員も、今年取り組んだプロジェクトの報告を行いました。

発表した2名のSAP会員は、令和6年2月2日に開催される県SAPグランプリに出場するため、内容について関係機関や農業経営指導士からの示唆・助言をいただきました。

これらを参考に、更に発表内容をブラッシュアップし、SAP会員が当日よりよい発表ができるよう普及センターも支援していく予定です。



【意見発表で自分の思いを発表するM氏】



【キャベツのプロジェクトを発表するT氏】

2) 就農相談会を実施

13日、えびの市でいちごでの就農希望者1名、水稲とタケノコでの就農希望者の相談に対応しました。いちごでの希望者は、研修受講前の最終意向確認などを行った結果、えびの市いちご団地で、令和6年4月から研修開始となりました。水稲とタケノコでの就農希望者は、新規就農者が活用できる国や市の補助事業や制度資金について、関係機関から説明を行いました。

27日、高原町で父親の肉用牛繁殖経営を継承し、就農を希望している方の相談に対応しました。この方は、認定新規就農者の認定を取得し、補助事業や制度資金を活用を希望していたので、要件の説明や確認すべき事項について説明を行いました。

今後も関係機関と連携して支援を行っていきます。

(内訳 えびの市：施設野菜1件、水稲・タケノコ1件 高原町：肉用牛繁殖1件)

3) 各種就農相談会に参加

17日、大阪府で開催されたマイナビ主催の「マイナビ農林水産FEST」に参加し、就農相談の対応を行いました。西諸地域からは、きりしま農業推進機構が参加し、3名の方が相談に来られ、研修施設の紹介や就農する際の支援策などの情報提供を行いました。

いずれの相談会も、相談者は幅広く各地域の情報を収集し、それを元に就農地などを決めていく人が多く見られました。



【相談対応をする関係者】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 露地野菜の大規模法人連携に関する意見交換会を開催

21日に、普及センターで大規模法人連携に関する農地集約の意見交換会を開催しました。管内の4つの大規模法人、関係機関等併せて20名以上が参加し、巨大な西諸マップに各法人の農地をマーキングしたうえで、集約に関する意見交換を行っていました。

参加者からは、イメージしやすい、分かりやすいと好評で、さらに複数の法人の農地データを同地図にマーキングし、継続した意見交換会を開催することになりました。



【農地マップを広げての意見交換】

2) 加工用ほうれんそうの耐寒性向上試験

昨年度の加工用ほうれんそう栽培では、低温による障害と考えられる下葉からの黄化が発生しました。そこで、今年度は西諸県地区営農振興協議会と連携し、厳寒期を迎える前に耐寒性を高めておくことを目的に、液肥を3回葉面散布する試験を実施しています。

現時点では、耐寒性の向上効果はまだ確認できていませんが、1月下旬の収穫時調査を行う際に効果が発揮されていれば、気象変動に対応するための技術の一つとして検討を深めていきたいと考えています。



【耐寒性を高める液剤の散布】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご団地講習会

28日、えびの市いちご団地で、いちご団地の若手生産者を対象とした講習会を開催しました。講習会では、普及センターの黒木課長から、育苗期の管理について、肥料や病害虫の話を変えながら説明を行いました。

生産者からは、肥料の使い方や、育苗設備などについて質問があり、積極的な意見交換も行われました。

引き続き、個別巡回で育苗期の管理などを確認していきます。



【講習会の様子】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会 園地台帳整理に向けた聞き取り

4日から、JAこばやしマンゴー部会員に対して園地台帳の整理に向けた聞き取りを開始しました。内容は、所有する施設や樹体、雇用等の情報で、今後の産地の生産能力の予測や補助事業等の有効活用、事業承継などに有効に役立っています。JAこばやし担当者と協力し、今年度中の完成を目指しています。

今後も、関係機関と協力し、マンゴー産地の持続的な発展への支援を行っていきます。



【マンゴー部会園地台帳聞き取り】

2) JAこばやしマンゴー部会 女性部研修

7日、JAこばやしマンゴー部会女性部研修が開催され、浜ノ瀬ダム見学と意見交換会が行われました。生産者のほとんどが初めて浜ノ瀬ダムを訪れ、自分たちが利用している畑かん水の水源を確認し、ダムから放出される水を見てその迫力に驚いていました。また、ダム見学後は意見交換会が行われ、それぞれのマンゴーの生育状況等について話し合い、会話が弾んでいました。

今後も、関係機関と協力し、高品質なマンゴー生産等への支援を行っていきます。



【ダムを見ながら説明を聞く参加者達】

3) ぐれ〜ぷ 福岡県視察

12〜13日、若手ぶどう生産者グループのぐれ〜ぷで福岡県視察が行われました。

視察先はJA筑前あさくら杷木観光ぶどう部会の園地、福岡県農林業総合試験場果樹部、岩田屋本店南国フルーツ、ぶどう直売所2件で、ぶどうの着色や省力化、有望品種等について意見交換が行われ、会話が弾んでいました。

今後も関係機関と協力し、高品質なぶどう生産等への支援を行っていきます。



【ぶどう部会員と意見交換する参加者達】

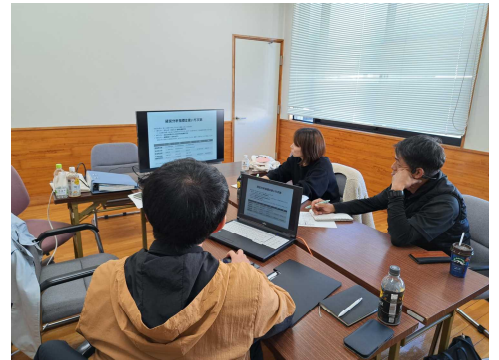
(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) モデル農家との経営検討会

7日、普及センターにおいて、モデル的経営体への支援として、小林市内のキク生産者に対し、農業経営改善提案書を元に現状と課題、今期の取組内容、支援方策について意見交換を行いました。年々売上げが上昇している経営体ではありますが、更なる単価向上に向けた高規格率のアップ及び労働力軽減に向けた作業の効率アップを目標に今後支援していきます。

また、労働時間の整理及び意思決定のポイントについての勉強会を開催しました。経営者が今後の方向性を決めることが大切ですので、その方向性を決定するためのポイントについて説明しました。

目標に向けた支援を継続して実施していきます。



【モデル農家との経営検討会】

2) JAこばやし花卉部会の定期巡回及び定例会

6日、小林市管内において、生産者5名、関係機関4名が参加し、キク生産者5戸の12月年末出荷型を中心にハウス巡回を行い、生育状況と年末の出荷計画について確認を行いました。また併せて年末菊圃場品評会も実施され、今年は初めて生産者も含めた審査が実施されました。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、普及センターからは、ネグサレセンチュウに対する農薬施用の調査結果について説明を行いました。



【JAこばやし花卉部会定期巡回】

3) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会

7日、高原町管内において、生産者3名、関係機関4名が参加し、キク生産者3戸のハウスについて12月年末出荷型を中心に巡回を行い、生育状況について確認を行いました。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、普及センターからは、土壌硬度について説明を行いました。



【高原町花卉部会定例会】

4) JAえびの市管内のランタンキュラス作付調査

6日、JAえびの市の指導員2名と、JAえびの市管内のランタンキュラスほ場3戸の作付調査を実施しました。

今年度は、3戸とも10月中に定植され、欠株は少なく生育も順調です。作付面積は昨年とほぼ同等で、合計約30品種の作付でした。昨年より収穫本数を伸ばしていけるよう支援していきます。

5) JAこばやしランタンキュラス研究会定例巡回及び定例会

14日、JAこばやしランタンキュラス研究会の活動として、管内の7戸のランタンキュラス生産ほ場の巡回及び定例会が実施されました。参加者はJAこばやしランタンキュラス研究会員6名、関係機関5名です。

今年度は全体的に、球根冷蔵時の球根腐敗の発生及び定植後の20℃以上の高温の影響などにより、株の太りがよくありません。今後は気温が低下しますが、日中の気温が低くなりすぎると伸長も遅くなるので、加温機などの利用を考えていく必要があるかもしれません。長期予報では、今年度は平年より気温が高く、雨が多いため、花シミの発生が懸念されます。まずは、株が太らせることが大事ですが、その後は花シミが発生しないよう、換気や加温機、微生物農薬の利用などを促進させ、出荷につながるよう支援していきたいと思えます。

定例会では、普及センターから営振協展示ほの現在の様子を説明し、資料にて病虫害予防や今後の管理について説明しました。



【JAこばやしランタンキュラス研究会定例会】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 高原町水稲栽培講習会

4日、高原町役場において、ふるさと納税に出品している生産者3名を対象に水稲栽培講習会が開催されました。

高原町の水質に観点を置いた、品質向上に向けての栽培管理について、普及センターから説明しました。

今後も役場やJA営農指導員と一緒に協力しながら、水稲の収量・品質向上に向けて活動や指導を行っていきます。



【水質を説明する普及センター】

2) JAこばやしいちご生産部会研修会

15日、小林集送センターで栽培講習会が開催され、その後、部会員とは場巡回を実施しました。

栽培講習会では、普及センターの黒木課長から、スーパーエルニーニョ現象に対応する栽培管理について説明がありました。

ほ場巡回では、部会員2名のほ場を生産者と巡回し、株の状態などを確認しました。

引き続き、JAと連携しながらほ場巡回のなかで、栽培状況の確認を行っていきます。



【ほ場巡回の様子】

3) 営農振興協議会花き部会県外視察

11月30日～12月1日、営振協花き部会9名で、大分県のキク産地2カ所の現地視察を行いました。

①大分県南部振興局管内の蒲江地区のキク部会では、ICTシステムである「菊の助」を利用し、出荷計画を立て、かつ消灯を調整することで安定的な計画出荷が確立しています。実際に、ほ場の視察と室内での検討を実施し、「菊の助」の導入の過程や実際の運営について勉強しました。

②大分県豊肥振興局管内にある、有限会社お花屋さんぶんご清川では、大分県でのキク栽培の経緯や担い手や経営における考え方、キクの栽培など幅広く意見交換しました。

キクではあまり導入が進んでいないICTを活用した運営の仕組みや現在西諸県地域で検討している資材の利用効果など、多くの分野で学ぶ機会となりました。

すぐに取り入れることが難しい部分もありますが、今後も引き続き関係機関と連携し、学んだことを活かした支援を実施していきます。



【県外視察 大分県室内検討】



【県外視察 大分県キクほ場】

4) 総合農業試験場花き部とのリンドウ及びランキュラス巡回

14日、えびの市管内のリンドウ及びランキュラスのほ場に花き部の研究員とともに巡回支援を実施しました。

リンドウ生産者に対しては、花き部が今年実施した、耐暑性リンドウの現地試験結果の説明と今後の耐暑性リンドウの対応について説明しました。

ランキュラス生産者に対しては、ほ場の生育状況から今後の栽培管理の助言をいただきました。

耐暑性リンドウについては、花き部による現地試験は終了しますが、西諸県地区では、引き続き花き部と連携して、定植3年目の生育について見ていきたいと思いません。



【研究員による耐暑性リンドウの説明】

5) 西諸県地区花き技術員会第6回定例会の開催

19日、小林総合庁舎にて室内検討を実施し、関係機関9名が出席しました。定例の管内の生育概況や11月の営振協花き部会の活動内容の共有、普及センターから次年度の営振協展示ほ設置の検討などを行いました。

今年度もあと3ヶ月ですので、今年度の調査結果の共有や次年度以降の課題の共有と検討を引き続き実施し、関係機関との連携により課題解決に向けた活動に取り組んでいきます。



【花き技術員会第6回定例会】

6) 茶の肥料・農薬座談会の開催

14日、小林市内において、西諸県茶業振興協議会を対象に、令和6年産の茶生産に向けた肥料・農薬座談会が行われ、茶生産者11名および関係者（JAこばやし、市町、宮崎経済連、肥料・農薬メーカー、農林振興局、普及センター）が出席しました。

会では、令和6年産に向けた茶栽培講習として、今年度改訂を行った栽培こよみに関する説明や、情報提供として各肥料・農薬に関する説明が行われました。

肥料・農薬の価格は高止まりしていることから、関係機関では土壌診断にもとづく適正施肥の推進や安価な資材の検討を行っていきます。